

第59回 日本臨床分子医学会学術集会 学術奨励賞 受賞について

この度は、2024年度 第59回日本臨床分子医学会学術集会におきまして、学術奨励賞という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。本受賞にあたり、日頃よりご指導いただいております山内 敏正先生、五十嵐 正樹先生をはじめ、五十嵐グループの磯谷 亮輔先生、成瀬 京子先生、蔵並 慧先生、その他多くの先生方に深く感謝申し上げます。本学術集会では、「NAD依存性脱アセチル化酵素 SIRT1 の腸管内分泌細胞における制御機構の解明」と

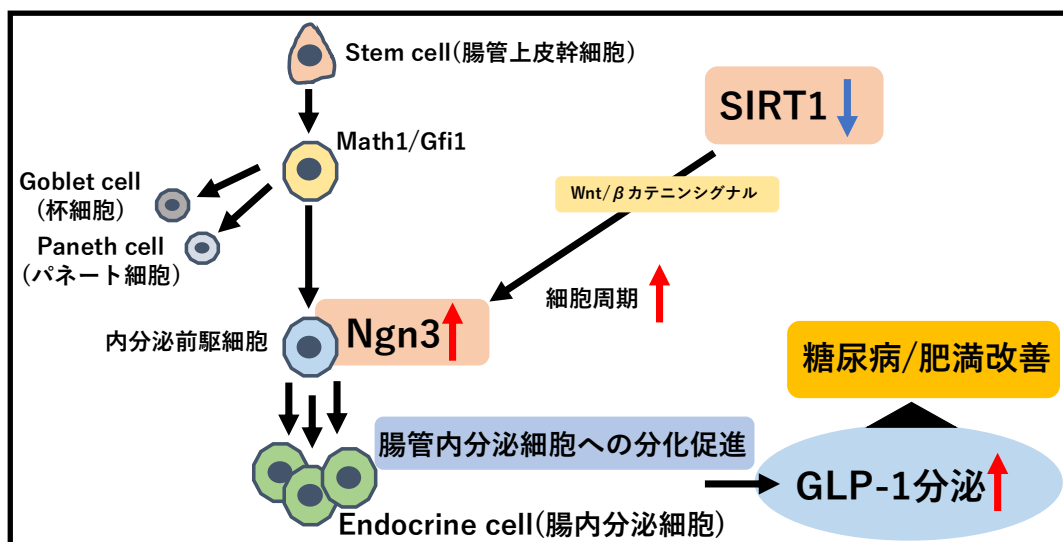


いう演題で発表させていただきました。私たちは、ノックアウトマウスや腸管オルガノイドを用いて、腸管上皮や腸管内分泌細胞における SIRT1 の役割を解明し、SIRT1 が腸管内分泌細胞数を規定する重要な制御因子であることを明らかにしました。SIRT1 の発現によって腸管の内分泌細胞数を調節することで、2型糖尿病や肥満症の治療に繋がることが期待されます(本研究内容は、東大病院のプレスリリース <https://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/20230823.html>)にも掲載されておりますので、もしよろしければご覧ください)。

本研究を進める中で、結果が出ずに悶々とする日々を過ごすことも多々ありました。そのような中で、メンターとして研究の方向性を導いてくださり、腸管オルガノイド培養や細胞実験、遺伝子クローニング実験など、あらゆる実験手法をご指導下さった五十嵐先生には大変感謝しております。また、結果が出ない日々の中でも、次の実験に繋がるような微かな成功の兆しが見えることもあり、それはまさに世界中の誰も見たことのない景色であり、非常に興奮するものでした。さらに、様々な実験において、結果次第で次の実験の方向性が大きく変わることもあり、緊張と驚きの連続でした。何でだろう、と思う気持ちを自分で解決できる喜びは、スマートフォンや Web が進化して何でも調べられる時代においては貴重な経験ではないかと思っています。自分で研究方法を考えて研究を進め、その結果が期待通りでなかった(問題が解決できなかった)としても、そこから新たな方向に研究を進めることができます。止まない雨はない、転んでもただでは起きない気持ちで研究に取り組めば、きっと色々な発見があると思います。未知の領域に挑むことで得られる知的興奮や達成感、研究を進める者にとって何物にも代えがたい喜びかと思えます。

私自身は、色々なことに思いを巡らせることが好きですが、最近私は、睡眠(生物は

なぜ眠るのか)や味覚(なぜ味を感じるのか)、生物の起源(生命はどこから来たのか)について興味があり、いつか研究できたら面白いなと思っております。これから医局に入ってくる皆さんと一緒に研究活動ができるかもしれないことを楽しみにしております。



腸管上皮幹細胞から腸管内分泌細胞へ分化する際のシエーマ